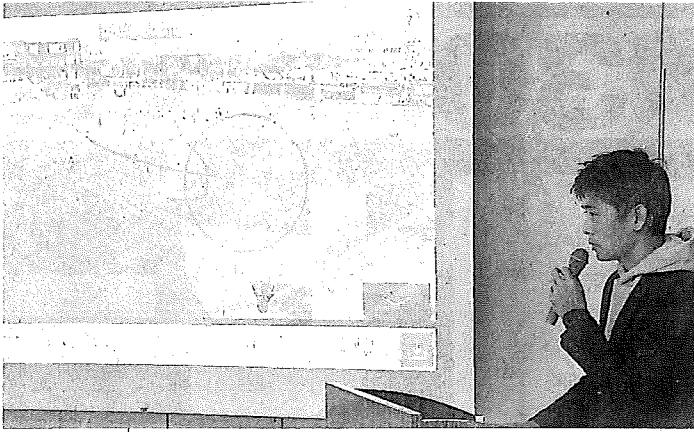


中学部活 企業が支援

企業や団体の力で地元の中学校の部活動をサポートしようという企画が、浜松市で始まった。トレーニングや体のケアの仕方を指導したり、医薬品や分析用アプリを無料提供したり。それぞれの得意分野に応じた支援をする。地域貢献を通じて企業価値を高めることが、中長期的な業績拡大につながる。との考えが背景にある。



トレーニング方法指導や医薬品提供など 地域貢献通じ業績拡大も

浜松

浜松市中区のL.P.ガス販売会社「エネジン」が呼びかけ、13の企業・団体が始めた。「地域の皆さんに支えられてきた会社として恩返ししたい」とエネジン営業企画部の匂坂幸治さん。自身の子どもも中学や高校で野球をやっており、「子どもの夢をかなえる環境を与えるのが親の役目」という思いもあつたという。

今年度の支援対象は、浜松市立引佐南部中野球部と同東部中サッカー部、それに同開成中女子バレーボール部。9日、その3校の保護者らを集めて支援企業による説明会があつた。例えば、フットサルクラブの「アグレミーナ浜松」や女子バレーボールクラブ「ブレス浜松」は、専門

的なトレーニングやスキル、戦術を指導。スポーツ医療の「アスリートケアエム」や「浜松医療学院」は、様々なチームにトレーナーを派遣するなどしてきた実績を生かし、体やメンタルのケアについて教える。

ドラッグストアの「杏林堂薬局」は年6回、鎮痛消炎剤などの試供品を提供するとともに、けがの予防やテーピング、栄養学などに関するセミナーを年3回開催すると説明。スポーツをしている小・中学生向けの雑誌を発行する「ジュニア

アスリート」は、企画を誌面で取り上げる予定だ。関心と呼んだのはアプリ開発の「スプライザ」。スマホで撮影したフォームやボールなどの軌跡を小刻みな残像で見せたり、試合の様子を映した画面に書き込みしたりできるアプリを無料提供する。

各社とも学校側とは基本的に合意しており、今後、具体的な1年間のサポート日程を詰める。長女が開成中でバレーをしているという母親は「中学校の部活動は送迎を含めて親が大変。強化や活性化

のため企業がサポートしてくれると子どものモチベーションが上がり、ありがたい」と歓迎する。企業にとってもサポートすることは意味があるという。スプライザの土井寛之代表は「私は県外出身で浜松にネットワークが薄く、東京や大阪に行つて営業活動をしている。部活動支援を通じた地域貢献は、会社が地域に根付き、ブランド力をつける良い方法」と話す。匂坂さんは「この企画が協賛各社の提携にまで発展すれば」と夢を広げている。

（大島真視）

試合を撮影した画面に書き込みができるアプリを説明するスプライザの土井寛之代表。浜松市中区のエネジン本社